

水戸病院だより

Mito Hospital News



第106号

2026年1月(新春号)

- 健康コラム「年明けに増える不調」
- 暮らしに役立つ情報「毎日の水分の取り方、実は間違ってる？」
- ちょっと教えて「訪問リハビリテーション」



発熱専用外来

当院では一般患者様と別に
発熱患者と分けて
外来診療を行っております。

 世界遺産 白川郷（岐阜県）

CONTENTS | 目次

- P2 新年のご挨拶
- P3 医局レポート「高血圧管理・治療ガイドライン2025」
- P4 健康コラム「年明けに増える不調」
- P5 暮らしに役立つ情報「毎日の水分の取り方、実は間違ってる？」
- P6 特集(最終回)“口から食事を食べ続ける”ために
- P7 イベント紹介「第14回SQM発表大会／みちくさ」
- P8 ちょっと教えて「訪問リハビリテーション」
- P9 バトンタッチ放談・おばあちゃんの知恵袋
- P10 外来診療担当案内・施設のご案内

正信会 理念

病める人に寄り添った質の高い保健・医療・介護の提供

基本方針

- 地域に根差した信頼される施設づくりに励みます
- 思いやりの心を大切にすべての人の尊厳を守ります
- 新しい知識・技術を求め日々研鑽に努めます

TAKE
FREE

ご自由にお持ち帰り下さい



医療法人 社団正信会
理事長

増田 住博



『新年のご挨拶』

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年夏は日本各地で40度超えの猛暑日が続き、熱中症警戒アラートが毎日のように発表されていました。群馬県伊勢崎市では41.8度を観測し、国内最高記録を更新しています。

三重大学グループの研究では、過去42年間で日本の「夏の期間」が約3週間長くなっていたことが分かりました。「冬の期間」はほぼ変わらないが春と秋が短くなり、「二季化」していたこととなります。「夏の期間」は年々、日数が増加傾向にあるそうです。地球温暖化による海面水温の上昇が主な要因と考えられるので、今後も温暖化が続けば長い夏と冬の二季化がより進むことになりそうです。昨年秋は夏の暑さが長く続いた後、急に寒さが襲来したため秋の紅葉の色付きが鮮やかでした。我が家の庭のもみじの紅葉も真っ赤に染まってきれいでした。

今、医療や介護の現場では慢性的な人手不足に直面しています。生産年齢人口の減少、更には高齢者人口の増加を受け、現在より多くの医療・福祉人材が必要となります。その解決策として考えられるのが医療DXでの効率化です。バイタルサイン等の看護記録、各種文書作成などの間接業務をAIやICTで効率化し、医療従事者が患者対応に集中できる環境を整備する必要があります。

一部の医療機関や介護施設では、電子カルテ上に音声入力システムで記録した看護記録をAIが解析し、入院患者の転倒リスクを評価することで、転倒インシデントを大幅に減らせた事例、又、会議の議事録作成にも一役を担い、時間の短縮化に役に立っていること等の報告がされています。

当法人でもテクノロジー導入に向けて、専門委員会を立ち上げ前向きに検討して準備を進めています。

今年が皆様にとりましてより良き一年になりますようご祈念申し上げます。

医局 レポート

DOCTOR
REPORT

正信会 水戸病院
医師

尾林 秀幸

高血圧管理・治療ガイドライン2025

肌寒い日が多くなり、血圧が上がりやすい季節になりました。

日本高血圧学会は、2019年のガイドラインを改定し、「高血圧管理・治療ガイドライン2025」を公表しました。今回はその中から、生活習慣改善のポイントをみていこうと思います。

●生活習慣の改善	高血圧の予防、内服開始前、内服開始後いずれの時期でも重要
●食塩制限	目標は6g/日未満 塩分の多い調味料や加工食品に注意。栄養成分表示を確認
●K（カリウム）摂取	腎不全など制限が必要な方は注意 Kの多い食品は野菜、果物、低脂肪牛乳・乳製品等 *DASH食や地中海食もお勧め、肉類より魚を主とする、主食に全粒穀物を入れる、豆類を摂る、間食やつまみをナッツ類（無塩）にする等
●適正体重の維持	BMI：25kg/m ² 未満を維持 糖・脂質・尿酸の代謝異常や脂肪肝、肝がん、月経異常、睡眠時無呼吸症候群、整形外科疾患などとも関連
●運動	運動中の血圧急上昇に注意 軽～中等度強度の有酸素持久運動（ウォーキング、ジョギング、スイミング、自転車エルゴメーター等）、レンジスタンス運動（スクワット、腕立て伏せ、プランク等）、それらの複合いずれも有効
●節酒	お酒は下記以下を目安に（エタノールで男性20～30mL/日、女性10～20mL/日） 1～2週間で血圧低下がみられます ◇男性…ビール中瓶1本、日本酒1合、焼酎1/2合、 ウイスキーダブル1杯、ワイン2杯 ◇女性…ビール中瓶1/2本、日本酒1/2合、焼酎1/4合、 ウイスキーダブル1/2杯、ワイン1杯
●禁煙	加熱式たばこも含め禁煙を推奨。体重増加に注意
●その他	気温の低下は血圧上昇に関連します 屋外だけでなく、室内や入浴前後、脱衣所でも注意 睡眠時間の確保（6～8時間/日）、便秘回避（いきむと血圧上昇） ストレス管理、スマホアプリやデジタル機器の活用

生活習慣の改善は「これをすれば終わり」ではなく、継続していくことが最も大切です。

通院に介助が必要になってくる等、体力が低下してくると血圧の目標値も変わってきます。持病や体力的なこと等でできること・注意することが変わってきますので、ぜひかかりつけの先生と相談しながら、ご家族の方や友人と一緒に生活に上手に取り入れていって頂けたらと思います。

*DASH食（Dietary Approaches to Stop Hypertension）とは、アメリカで開発された高血圧予防・改善のための食事法。

健康コラム

年明けに増える不調 ～正月明けの体、どう守る?～



お正月の食べ過ぎ・夜更かし・生活リズムの乱れで、年明けに意外と増える不調があります。実は、発熱や咳だけでなく、胃腸のトラブルや血圧の変動、不眠などもこの時期に多く見られます。早めに体の変化に気づき、無理のない対策を心がけることで、休み明けも元気にスタートしましょう。

年明けに増えるトップ5（原因と予防法）

何気ない生活のなかで、意外に起こりえる症状は以下のとおりです。新しい年を迎えるにあたり、気持ちよい新年を過ごしたいですね。



病気・症状	原因	予防
胃腸炎・下痢・嘔吐 (ウイルス性・食中毒)	帰省や会食での人の往来、調理の温度管理の乱れ 年末年始は複数の消化器系感染が同時流行することもあります	料理の冷却・加熱を徹底、手洗い、調理器具の共有を避ける 症状が強い場合は速やかに受診を
呼吸器感染症 (例:インフルエンザ)	帰省や会食での接触、換気不足 2025～2026シーズンは全国・福岡で例年より早め・高い流行傾向が観測されています(定点報告数の上昇)	ワクチン接種(まだの方は相談を)、こまめな手洗い・換気・室内湿度管理、症状が出たら外出を控え医療機関へ
血圧上昇やめまい (高齢者で増加)	飲酒・塩分過多、睡眠不足、寒さによる血管収縮 年末年始の食卓で急に塩分・アルコールが増えることが誘因	塩分と飲酒を控えめに、朝晩の体温チェック、普段の薬は連続して服用を(自己判断で中断しない)
ぎっくり腰や腰痛など	大掃除や長時間の移動、普段と異なる重い持ち運び 運動不足の人が急に動くとき発症しやすい	荷物は腰ではなく膝を使って持つ、合間に軽いストレッチ、無理はしない

新春のすぐできる“セルフチェック”

お正月の間に知らず知らずのうちに、体に負担がかかっていることがあります。「少し変だな」と感じた時は、体からのサインかもしれません。以下のチェックで、今のご自身の体調を確認してみてください。

【チェックポイント】



<input type="checkbox"/>	食事	重い・油っこい食事が続いているか？
<input type="checkbox"/>	睡眠	平均7時間前後で規則的に眠れているか？
<input type="checkbox"/>	体温	朝・夜に平熱と比べて変化は？(37℃以上は要注意)
<input type="checkbox"/>	呼吸器	せき・のどの痛み・息切れはあるか？
<input type="checkbox"/>	排泄	下痢・血便・強い腹痛はないか？

※チェックで2つ以上当てはまれば早めにかかりつけ医にご相談ください。

毎日の水分の取り方、実は間違ってる？

私たちは毎日、何気なく水分を摂っています。

「のどが渴いたら飲めばいい」「お茶を飲んでるから大丈夫」…とっていませんか？
実は、水分のとり方ひとつで、体調や健康状態は大きく変わります。



日常生活でこんなこと、ありませんか？

例えば、「水分はお茶やコーヒーが中心」「喉が渴いたら飲む」「夜中のトイレが心配で、夕方以降は水分を控えている」など思い当たる方もいるかもしれませんが、一つでも当てはまれば、知らないうちに水分不足になっているかもしれません。日常生活で役立つ“正しい水分のとり方”をご紹介します。

なぜ、水分が必要なのか

私たちの体の約60%は水分できています。水分には次のような良い役割があります。
もし水分不足になってしまうと、さまざまな症状として体調不良などにつながってしまいます。

水分不足

水分の主な役割

- 体温の調整
- 血液の流れを保つ
- 栄養素や酸素を全身に運ぶ
- 老廃物を体外へ排出する等

水分不足になると？

- 頭痛やめまい
- 体がだるくなる
- 便秘を引き起こしやすくなる
- 発汗で水分が放出され熱中症になりやすい



「喉が渴いたら水分補給をすればいい」と思われますが、そのサインが出たときは遅いタイミングです。

体の中ではすでに水分不足が始まっており、特に高齢者の方は喉の渴きを感じにくくなるため注意が必要です。

ポイントは、“こまめに、少量ずつ”。

一度にたくさん飲むより、1～2時間おきに少しずつ飲むことをお勧めします。



水分以外でお茶やコーヒーでも水分補給になる？

水分補給になりますが注意が必要です。コーヒーやお茶は利尿作用があり、飲みすぎると水分が失われやすくなります。

水分補給の基本は水かカフェインの少ない飲み物(麦茶やほうじ茶)になります。



1日にどれくらい飲めばいい？

1日に飲む水分量*1は、食事以外では1日に約2～3リットルを推奨されています。
なお、個人差もあり体重1kgあたり45～55mlの範囲で水分の必要量*2とされています。

一気に飲むのではなく、起床後・食事の前後・入浴の前後・就寝前(少量)など、生活の節目で分けて飲むことをお勧めします。

夜間に気になる「夜中のトイレに行きたくないから」と水分を控えると、脱水や心筋梗塞等のリスクが高まります。就寝前は、コップ半分程度を目安に、無理のない範囲で摂りましょう。



水分不足は、特別な症状がなくても体に負担をかけています。
「のどが渴く前に、こまめに飲む」、この小さな習慣が、毎日の健康を支えます。
気になる症状がある場合は、早めに医療機関へご相談ください。



(参考)*1…水の必要量を算定するための根拠(厚生労働省)

*2…日本人における性・年齢別の水分必要量の分布:2016年国民健康・栄養調査(早稲田大学)

“口から食事を食べ続ける”ために ～誤嚥予防で長く食事を楽しもう～

美味しく食事を楽しむ為に気を付けていく事をお伝えする、全4回シリーズです。

管理栄養士：宮崎美里

言語聴覚士：富岡秋太

歯科衛生士：佐々野美緒子

前回の連載では、当院の介護医療院で行っている“口から食事を食べ続ける”ための取り組みについてお伝えしました。

今回は、実際にこの取り組みに了承を頂いた患者様・ご家族様の声をお届けします。

介護医療院の経口維持加算で関わった患者様の実例 ～A様の場合～



食事中に目を閉じられたり眠気が出られたりと、起きておく事が難しかったA様。

食事を提供した際にご自分で口を開けることや飲み込むことが難しい日もあり、食事の摂取量にもばらつきがありました。ご家族様の『口から食事を食べ続けて欲しい』というご要望もあり、2024年の秋から経口維持加算を通して他職種での関わりを開始しています。

管理栄養士は、無理をせずに食べられる量で栄養確保が出来るように食事提供量の調整と食事形態の検討を、言語聴覚士は職員に“アイスマッサージ”という、冷たい刺激で覚醒を促す方法の指導を行いました。

アイスマッサージをはじめとした食事前のマッサージを食事に携わる全職員が行えるよう周知することで、食事中でも意識を保つ事が出来る時間が次第に長くなってこられるという嬉しい変化がありました。また、歯科衛生士は口腔内を清潔に保つためのケア方法を共有し、安心して食事がとれる環境を支えてきました。

このように各職種が特徴を生かしながらA様が可能な限り『口から食べる』ことを維持出来るように努めました。今回の連載メンバー以外でも、ケアマネージャーがご家族様に伺ったA様のお好きな音楽を食事の時に流したり、家族様の持参して下さった好物の焼き芋を言語聴覚士が形態調整して看護師・介護福祉士が介助を行ったり・・・本人様に楽しんで頂ける“プラスの刺激”を提供できる環境作りを病棟で一体となって取り組んでいきました。

現在、A様はお食事中に眠気が出ることは減り、食事を飲み込む力も安定して来られている状況です。それだけでなく、身振り手振り笑顔で食事の感想を伝えながら楽しく食事をされています。大好きなお寿司を食べられるように、今後も病棟全体で関わりを継続していきます。

A様のご家族様・経口維持加算メンバーより

前の病院で表情が乏しくなった際は心配したが、こちらですごくお世話になりました。これからも刺激がある暮らしをしてほしいですね。声ももっと出てくれて、会話が出来るとよいと思っていますよ。



お寿司が好きだったので、私たちが食べるような形態のお寿司をもう一度食べてもらいたいですね。これからも音楽を聴きながら楽しんで欲しいです。また家からCDを持ってきます！

ご家族からのご要望を多職種で関わることで叶えていったA様。ご家族のご協力が我々スタッフの励みとなり、今食事を楽しんでおられる状況と一緒に喜べる事がさらなる励みに繋がっています！
(歯科衛生士 佐々野)



多職種で実際に食事を摂取されている所へ行く為、どのようにすれば飲み込みやすくなるかという言葉だけでは伝わりにくいアドバイスもしてもらって伝わりやすくなりました。病棟全体への周知も行き届くようになり食事形態もミキサー食からソフト食まで上げることが出来ました。

(言語聴覚士 太田・富岡)

連載は今回が最終回となります。ご愛読ありがとうございました！

第14回 S Q M 大会報告



- 開催日 令和7年7月12日(土)
- テーマ チームワークで問題・課題を解決

今回で14回目を迎えたSQM発表大会では、各部署が日々の業務の中で取り組んできたQC活動の成果が報告されました。

業務の効率化や安全性の向上、患者サービスの質の改善など、各部署が現場の課題に向き合い、継続的に取り組んできた改善活動の結果が共有されました。

日常業務と並行しながらの活動ではありましたが、職員一人ひとりの工夫と協力により、実践的で意義のある取り組みが数多く発表されました。

これらの活動は、今後のより良い医療・サービスの提供につながるものとして、法人全体で共有・活用していきます。



テーマ	サークル名	発表部署
タイパでつながられ月末業務	すみっこNINE	訪問看護
業務時間の無駄をなくし、書類作成時間の確保	ザ・タイム・ショック	リハビリ
臀部の皮膚トラブル軽減	おしりをきれいにし隊	老健3階
安全な食事提供の入院時チェック体制の構築	ホワイトビーチ	1病棟
入所者に喜ばれる季節を感じる景観づくり	こっちの∞	老健事務
AI導入後の変化	画像診断課	画像診断課
オムツの使用枚数を減らす	SMILE	介護医療院ほほえみ

寄り道で見つけたスポット

みちくさ

今回ご紹介するのは須恵町にある投げ処 喜いちさん。昼は定食のランチ、夜は炉端焼きをされており、昼と夜で違った楽しみ方ができます。定食ランチにはお惣菜の小鉢がつき、どれもリーズナブルで栄養満点のものとなっています。



たくさんの方がその味に魅了され、肉、魚と種類も豊富でもう一度足を運びたくなります。お店の方もすごく気さくで優しく、まだオープンして1年未満のため、穴場スポットです。

ぜひ、みなさんに一品一品の丁寧な味づけとお店の雰囲気魅了していただけたらと思います。

●投げ処 喜いち

糟屋郡須恵町旅石86-105

営業時間

昼 11:00~14:00

夜 17:00~22:00

☎ 092-600-7132



訪問リハビリテーションとは

“リハビリテーション”（以下、リハビリ）とは、病気や怪我等により低下した心身機能や生活動作を回復し、自立した生活、自分らしい生活を送れるように支援する取組のことです。

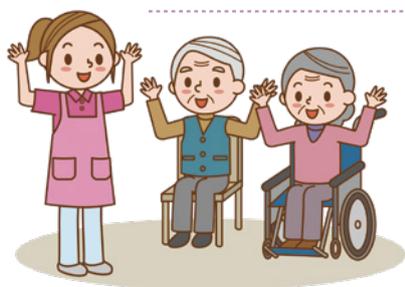
リハビリはその人の状態により目標や支援内容も異なってきますが、今回は自宅で行う訪問リハビリテーション（以下、訪問リハビリ）について説明したいと思います。



訪問リハビリは病院や訪問看護ステーション、介護老人保健施設等の理学療法士（PT）や作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）が医師の指示のもとで自宅に訪問しリハビリを行うサービスです。訪問リハビリは介護保険、医療保険において利用が可能です。病院やリハビリ施設への通院が困難な方、退院（退所）後で日常生活に不安がある方で、医師により訪問リハビリが必要と認められた場合に利用可能となっています。

訪問リハビリに関する費用は状況によって変わりますが、訪問リハビリ1回あたり20分で294～308円（一割負担の場合）、1週6回まで（状況により増える場合あり）となっています。

訪問リハビリのメリットは実際の生活環境におけるリハビリ（動作訓練等）が行える点です。例えば食事にしても生活環境により食べる場所や時間帯の違い、調理が必要か、食器の片づけが必要かもそれぞれの過程で違いがあると思います。また、介助者がいるかないか、介助者がいる場合もどの時間でどの程度の介助が可能かも違いがあります。訪問リハビリではこのような点を把握しやすく、困難となっている動作について自宅での動作練習が可能となります。また、直接介助者へ指導やアドバイス、環境調整もできます。



在宅生活を長く継続していくためにも、できるだけ自立した生活を送ること、活動性を上げること、自分らしい（自分が望む）生活を送ること（生活の質の向上）が重要です。そのような支援を行うサービスの1つとして訪問リハビリがあることを知っていただくと幸いです。

退院直後で生活動作に不安がる方、デイサービス等外出を伴うサービスの利用が困難な方は訪問リハビリがおすすめです。
詳しくはケアマネージャーや医療介護支援相談室にお尋ねください。



私が介護支援専門員を志した理由

～栄養指導から介護へ ー私が見つけた新しい役割ー

正信会水戸病院介護医療院
介護支援専門員 石野 宏

介護支援専門員として働くようになったきっかけは、以前担当した一人の利用者さんとの関わりでした。私はもともと管理栄養士として訪問栄養指導をしており、Tさんという80歳の独居の方を担当していました。肥満と膝の痛みがあり、減量のための食事指導を続けていましたが、映画鑑賞や友人とのおしゃべりが好きで、いつも穏やかな笑顔をを見せてくれる方でした。一緒に料理を作りながらの指導が合っていたのか、体重も少しずつ落ち、生活にも張りが見えていました。

しかし、家族の勧めで車の免許を返納してから外出の機会が減り、次第に閉じこもりがちに。訪問時には表情も暗くなり、自宅の衛生状態も悪化していきました。本人に話を聞くと「膝が痛くてトイレに行くのもつらい」「お風呂も入れていない」とのこと。担当の介護支援専門員と連携し、福祉用具やサービス利用につなげましたが、生活そのものがうまく回らず、食事指導だけでは支えきれない現実を感じました。

その後、Tさんは施設入所を選ばれ、「今までありがとう」と言ってくれましたが、私は「もっと生活全体に踏み込んで支える方法はなかったのか」と何度も考えました。この経験が、栄養だけでなく暮らし全体を支える介護支援専門員という仕事に進む大きなきっかけとなりました。

現在は介護医療院で勤務しています。関わる方がどんな形でも“自分らしく”過ごせるよう、これからも寄り添いながら支援を続けたいと思います。



寒い冬での冷え対策

●冷えが起こる理由と日常でできる予防

冬場に起こる「冷え」は、気温の低下により血管が収縮し、手足の末端まで十分な血流が届かなくなることが主な原因です。特に女性や高齢の方は筋肉量が少ないため、熱を生み出す力が弱く、より冷えやすい傾向があります。

また、運動不足やストレス、締め付けの強い衣服も血行不良を招き、冷えを悪化させる要因になります。予防には、軽いストレッチやウォーキングなど、筋肉を動かす習慣が効果的です。

加えて、体を締め付けない衣服を選び、手首・足首・首元の「三首」を冷やさない工夫をすることで、体温の保持がしやすくなります。

●自宅で行える簡単な温活と食事のポイント

足裏のツボを刺激する「青竹踏み」は、足先の血流を促す手軽な温活として紹介されています。テレビを見ながら数分踏むだけで、足元の冷え改善に役立つとされています。

また、ぬるめのお湯で行う手浴・足浴も血行促進に有効で、寝る前に実施すると全身が温まりやすくなります。

食事面では、しょうが・にんにく・ネギ・玉ねぎなど、体を内側から温める食材を取り入れるのがポイントです。一方で、唐辛子などの激辛食品は一時的に体が熱く感じても、汗の蒸発によって逆に体温低下を招くことがあるため注意が必要です。こうした身近な対策を組み合わせることで、冬の冷え対策を無理なく続けることができます。



教えて！
おばあちゃん
の知恵
袋

外来診療担当医のご案内

令和5年12月1日～

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 9:00 ～ 12:00	第1診察室	吉松 卓也	富安 幸博	増田 住博	富安 幸博	白橋 斉	吉松 卓也
	第2診察室	尾林 秀幸	猪野 祥史	[循環器内科] 吉松 卓也	猪野 祥史	富安 幸博	小田 太士 ※第1-3 王寺 裕 ※第2-4-5
	第3診察室	井上 順	水戸 大樹	[総合内科] 河野 理子	水戸 大樹	井上 順	渡邊 豊吉
	第4診察室	[九大循環器内科] 近藤 萌	[九大神経内科] 岩尾 和紀		[リハビリテーション科] 小牧 ゆか	谷口 志保 ※第1-3	
	消化器検査	白橋 由美子(白橋 斉) 王寺 裕 ※第1-3	白橋 斉 ※第1-3 王寺 裕 ※第2-4-5	白橋 斉 ※第1-3-5 王寺 裕 ※第2-4 白橋 由美子 ※第2-4	白橋 由美子 白橋 斉 ※第4	王寺 裕	白橋 斉
	小児科	藤原 崇・因てい子	因 てい子	藤原 崇・因てい子	藤原 崇	藤原 崇・因てい子	藤原 崇
	健診	富安 幸博 岩佐 一弘 ※第2-4	岩佐 一弘 井上 順	岩佐 一弘 白橋 由美子 ※第1-5 猪野 祥史 ※第2-4	尾林 秀幸 ※第1 白橋 斉 ※第2-5 岩佐 一弘 ※第4	白橋 由美子	尾林 秀幸 ※第1-3-5 猪野 祥史 ※第2-4 井上 順 ※第4
午後 13:30 ～ 17:00	第1診察室	白橋 斉	王寺 裕	尾林 秀幸	休 診	尾林 秀幸	休 診
	第2診察室	猪野 祥史	井上 順	河野 理子		水戸 大樹	
	第3診察室	[総合内科] 白橋 由美子					
	小児科	藤原 崇・因てい子	因 てい子	藤原 崇・因てい子		藤原 崇・因てい子	
17:00以降	当院医師または大学医師による交替制 (内科の外来診療は平日 19:00迄、土曜日は 12:00迄。但し急患はこの限りではありません。)						

● 午前の健診や検査の担当医は、外来診療には入りません。 ● 都合により担当医が変更になる場合がありますのでお問い合わせください。

24時間365日対応で訪問診療します

水戸病院では通院が困難な方のご自宅や施設へ医師、看護師が訪問を行っています。
ご利用を希望の方は当院までお問い合わせください。



施設のご案内

■ 正信会水戸病院 TEL(092)935-3755 / FAX(092)935-6626

〒811-2298 福岡県粕屋郡須恵町大字旅石115-483 (須恵高校前・新生バス停前)

URL <https://www.s-mito.org> E-mail info@s-mito.org



診療時間

月曜日・火曜日・水曜日・金曜日 / 9:00～19:00

木曜日・土曜日 / 9:00～12:00

木曜日・土曜日の午後、日曜日・祝祭日 / 休診

(急患はこの限りではありません)

介護医療院 ■ 水戸病院介護医療院 TEL(092)935-3755 FAX(092)935-6626

介護老人保健施設 ■ ニューライフ須恵 TEL(092)937-1055 FAX(092)931-8695

訪問看護 ■ あすなる訪問看護ステーション
TEL(092)936-9653 FAX(092)936-9655

健康診断・人間ドック ■ 水戸病院 健診センター TEL(092)935-3799

通所リハビリテーション ■ 水戸病院 通所リハビリテーション TEL(092)410-2003

居宅介護支援事業所 ■ ケアワイド21 TEL(092)957-3321 FAX(092)957-3322

訪問介護事業所 ■ あすなるヘルパーステーション TEL(092)935-3896

住宅型有料老人ホーム ■ コンフォート須恵 TEL(092)935-3850 FAX(092)935-3851

通所介護事業所 ■ コンフォート須恵デイサービスセンター TEL(092)935-4150

■ 発行:医療法人社団正信会 理事長 増田住博 ■ 編集:水戸病院 広報企画委員会 ■ 印刷:(有)清原印刷

(注)「水戸病院だより」に掲載しております患者さまの顔写真等につきましては、御本人・御家族さまの了解を得ております。